

自然と星空の三鷹を巡る安全ツーリズム

1 取組の目的・全体像

(1) 目的

- ア 「安全」の有難さは、非日常の事態に陥った時に実感するものである。三鷹市民が日常生活のなかで危険や異変に気付くアンテナやセンサーを持ち、関連部署へ報告できるような市民社会の育成・構築を目的とする。マチコエ 安全なまちづくり部会 防犯・消費者保護グループで政策提言した「市民全員！地域応援隊」の創設を目指す。
- イ まずは、「三鷹の良さ」を実感し、楽しみながら安全への理解を深める。そして、安全と表裏にある身近な危険を発見し、考え、問題点や課題を共有する。市民同士が触れ合い、「三鷹を好きになる」取組から市民による地域力の向上を図ることを目的とする。

(2) 全体像

三鷹市内を巡り（楽しもう！）、危険や異変に気付くセンサーをみがきつつ（発見しよう！）、三鷹の良さを再認識できるツーリズム（考えよう！）を実施。警視庁三鷹警察署のふれあいポリスと一緒に貸し切りバスで巡り、その場での講和や昼食後に 30 分の安全防犯講座を開催した。三鷹の魅力ある場所を訪ね、各地では市内の小学生が作成した「地域安全マップ」で小学生が危険と思う場所を確認した。楽しみながら視点を変えつつ、改善点を発見する。最後にどうすればもっと良い三鷹をつくれるかを参加者で話し合い、気づきを共有し、考え、市民同士の絆を作り深めるワークショップを実施した。

(3) 実施内容（ツーリズム・講座・ワークショップ）

日 時：2023 年 12 月 13 日（水）9 時～16 時 30 分

参加者：17 名（運営側 5 名を含む）

巡り場所：三鷹駅集合～国立天文台(4D2U シアター)～大沢の里～さんさん館（昼食・ふれあいポリス講座）～井の頭公園～三鷹産業プラザ（ワークショップ）

2 取組のポイント

- (1) 三鷹市の魅力ある観光資源や研究施設を安全の視点で選定し、活用した。
- (2) 参加者募集は、図書館、地域コミュニティセンターなどにチラシを配置し、市報で呼び掛けた。
- (3) 「安全」と表裏の「危険」について取り上げるため、警視庁三鷹警察署ふれあいポリスに協力をいただいた。ふれあいポリスが同行し、参加者はふれあいポリスの講座や対話を通して、地域で生活する安心感を得られるようにした。
- (4) 巡り場所の学区の小学生が作成した「地域安全マップ」を参照し、マップに記載された市内の危険個所を参加者と確認し合った。
- (5) ツーリズムではバス移動ではあるが、現地は徒歩で巡るため不測の事態に備えて、行事保険に加入した。また、事前に事務局（運営メンバー）でコースの下見を行った。実施

- 当日は、一行の前後にスタッフを配置し、安全遂行に配慮した。
- (6) 初対面の参加者同士がコミュニケーションをとれることを重視した。
 - (7) 昼食の弁当は市内の社会福祉法人が運営する配食サービスを利用した（希望者のみ）。

3 取組の成果

ツーリズムを通して問題点や課題を共有し、三鷹をさらに良くする知恵や方法を享受するためワークショップにて、(1)もっと良くなると思ったところ、(2)危険だと思ったところ、(3)気づきをまちづくりに反映するには、以上3点の項目で意見を交換し、共有した。

以下、共有した意見を抜粋する。

- (1) もっと良くなると思ったところ
 - ・三鷹市内には沢山良いところがあるがPR不足。もっと宣伝が必要
 - ・(ふれあいポリス講座より)「チラ見」が大切。「あいさつ」が大切
 - ・道路歩道が狭い
 - ・災害設備の充実
- (2) 危険だと思ったところ
 - ・水害の再認識ができた（野川、井の頭池）
 - ・大沢は「星のまち」の対称として、夜は暗く街灯がない
 - ・防犯カメラの設置場所がわからない
 - ・道路が狭い
 - ・段差が多い
- (3) 気づきをまちづくりに反映するには
 - ・あいさつ、コミュニケーションが大事
 - ・知らない人を見過ごさない。怪しい人にはあいさつをする
 - ・地域で防犯見回りをする場合、「腕章」の効果が高い
 - ・地域で顔見知りを作る
 - ・地域に興味のない人をどう巻き込んでいくかが課題
 - ・行政との意見交換が大事。気が付いた点を通報する仕組みが、双方向にあるとよい
 - ・一か所でわかる案内所があるとよい
 - ・動画配信やSNSで分かりやすく発信する

その他、所轄警察署には「ふれあいポリス」がいることをもっとアピールするべきとの声も上がった。



使用した観光バス



井の頭公園西園での集合写真

三鷹市の安全なまちづくりを視点到場所を巡り、市民同士で問題点や課題を共有した内容を上記にまとめた。参加者同士および運営者側と顔見知りになり、三鷹市をさらに良くする知恵や方法を享受した結果、社会参画した（よりよい社会の形成に主体的にかかわった）ことによる参加者の満足度はかなり高かった。閉会后、参加者から継続的な開催への強い要望を多くいただき、笑顔で帰って行かれた。運営側も安全に企画を遂行でき、参加者から期待を超えた反響を頂戴したことから、大いなる充実感、達成感を得られた。

このツーリズムは、事業計画書の「事業による効果」に記載したように、「参加意識が生まれるという仕組み実感」ができるものとなった。加えて、事業目的として掲げた「市民全員！地域応援隊」の創設に向けても、三鷹市民がより三鷹市に愛着を持ち、市民が主体となる社会構築のための「地域応援隊」として活動することで三鷹市の安全なまちづくりに大いに寄与する礎となる取組となった。

4 次年度以降の取組について

【今後の展望、現状の課題】

- ・今回は三鷹の魅力あるスポットを選び、基本的なコース設定したが、それ以外の観光資源や研究施設を利用した複数のコースのプランニングが可能である。
- ・研究施設の団体参加の日程により平日開催に設定せざるを得ず、大学生や三鷹に転居して間もない人などの本来参加対象としていた層への参加働き掛けが今後の課題となった。
- ・今回の企画は、参加者および、ふれあいポリスからも継続開催の要望をいただき大好評で終了できた。今後の展望としては、事務局（運営メンバー）のスタッフ人材を増強する必要がある、近隣大学の学生との連携をとることを検討したい。
- ・小学生、中学生、高校生においても、成長に応じた体験活動や地域探求に利用できる。
- ・実施時期は12月で、温暖な天候に恵まれ気持ちよく歩くことができたが、今後の開催は、悪天候での遂行も考慮しておく必要がある。
- ・市民自身に関わることで地域が良くなることが参加意識を高める。「改善点を発信→改善される→改善されたことが報告される→達成感や参加意識が生まれる」という仕組みが実感できる企画を検討したい。

<取組の報告を受けた選考委員からの主な意見（助言等）>

- まち歩きのツアーということだけではなく、安全と結び付けているところに大きな特徴があると思う。イベントの周知方法を工夫したり、学生などの若い世代との繋がりを作ることで、より幅広い年齢層の方が参加してくれるようになると思う。
- 大学生に参加してもらうには、大学のクラブやゼミなどにアプローチしてもよいかもしれない。学生の中にはこのような取組に参加したい人もいると思われるので、声をかけたらボランティアとして多くの学生が集まってくれると思う。